

神戸大学ジャンモネ CoE・NECA 国際シンポジウムが 6 月 26 日（東京）、28 日（大阪）で開催されました。

神戸大学ジャンモネ CoE と一般社団法人 日本電気制御機器工業会（以下、NECA）共催で国際シンポジウム「世界における安全安心の新潮流：協調安全 Safety2.0 と VISION ZERO の連携推進に関する日欧戦略的協同」を 6 月 26 日（火）に青山学院大学アイビーホール（東京会場）、28 日（木）は大阪大学中ノ島センター 佐治敬三メモリアルホール（大阪会場）で開催しました。東京会場は 141 名、大阪会場では 105 名の方にご来場いただきました。

シンポジウムは 5 つの講演で構成され、窪田明 NECA 専務理事の開会挨拶で始まり、森井昌克神戸大学大学院工学研究科教授の司会で進められました。

最初の講演は、「ものづくりの将来像 5ZERO マニファクチャリングと安全安心化への取り組み」と題し、NECA ものづくり・ことづくり委員会委員長の葉山陽一氏にご登壇いただきました。葉山氏は、「Connected Industries」と NECA の取り組みについての説明をされた後、2010 年から 2030 年の期間で定められた 4 つの目標レベルでの 5ZERO マニファクチャリングの概要や経済産業省が推進しているセーフティーアセッサ資格制度の詳細についても説明された。

次は、英国ノッティンガム大学（労働安全衛生マネジメント）名誉教授の Gerard I.J.M. Zwetsloot 氏に「The Zero (Accident) Vision, European experiences and perspectives」をご講演いただき、Vision Zero や Zero Accident Vision(ZAV)の理論的根拠をご説明いただきました。また、Zwetsloot 氏は、ZAV の実施のための成功戦略に関する研究結果を発表され、石油、ガスおよび建設セクター等での具体的な事例を示されました。

3 番目は、一般社団法人セーフティグローバル推進機構(IGSAP)会長であり、明治大学名誉教授である向殿政男氏に「企業トップがリードする『未来安全構想』の実現と新しい協調安全に関する取り組みについて」をご講演いただきました。向殿氏は、日本のすべての産業に対し、企業経営での「安全」の重要性を主張されました。彼は、また、未来安全構想である「Safety2.0」の概念においては日本と欧州の企業間の協力関係が強化される可能性が秘められていると強調されました。

4 番目の講演は、「日本における『ゼロ災運動』とはーその歴史と理念及び活動についてー」と題し、鈴木博仁中央労働災害防止協会教育推進部審議役兼ゼロ災推進センター所長に登壇していただきました。講演では、日本における『ゼロ災運動』の活動理念や目的、そしてその実行についての詳細をお話いただき、日本の KYT（危険余地訓練）の洞察についても加えてお話いただきました。

最後は、オランダ応用科学機構（TNO）安全技術革新プロジェクトマネージャー及びシニアコンサルタントの Johan van Middelaar 氏に「Human-Robot collaboration- TNO, the Netherlands」にてロボット工学の専門的な知識をご提供いただきました。Middelaar 氏は、様々なレベルでのヒューマンロボットインタラクションを詳細に説明され、ロボットの利用に関する TNO の事例を示されました。

シンポジウムは、5人のスピーカーとパネルモデレーターの藤田俊弘 NECA 制御安全委員会委員長の間で活発なパネルディスカッションと意見交換が行われました。そして、このシンポジウムは、八牧暢行中央労働災害防止協会理事長による閉会の挨拶で終了しました。

